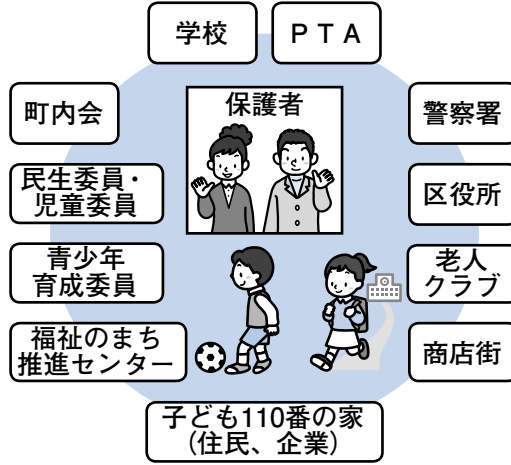


防犯

犯罪被害に遭わないように

子ども、女性、高齢者が犯罪に巻き込まれる事件が後を絶ちません。中でも、子どもが被害者になるケースが増えています。保護者と子ども自身が気を付けることはもちろんですが、地域で防犯活動に取り組み、ことで犯罪が起きにくい環境をつくることができます。



保護者の留意点

- ◎一人で遊ばせない
- ◎外出時に行き先を知らせる
- ◎何かあったら大声で助けを呼ぶようにさせる
- ◎変わったことがあったら家で言うようにさせる
- ◎「子ども110番の家」を確認

→豊平警察署生活安全課ホームページ (<http://www.toyohira-syo.police.pref.hokkaido.jp/se/sean.html>) もご参照ください。

地域をパトロール



東月寒地区では、児童の下校時に青色回転灯を装着したパトロール車が週一回走っています。幹線道路から路地まで一回の走行距離は実に十五キロ。火の用心、交通安全の啓発の効果もあります。また、地区内にある日本道路(株)道央営業所は、業務車両に防犯パトロールのプレートを自主的に装着しています。工長の小橋さんは「交通安全啓発や除雪も含め、少しでも地域に貢献できれば」と話します。

子ども110番の家が各地域に

「子ども110番の家」は、子どもが身の危険を感じたときの緊急避難場所です。表示プレートが目印。福住地区では、町内会が中心となって住民や企業に加入を働き掛けており、現在は四百軒を超えています。加入者には対応マニュアルを配布し、連絡網を整備しました。子どもが普段から110番の家を訪ねて、駆け込みやすい環境づくりも進めています。二十四時間営業のコンビニエンスストアも加入しています。

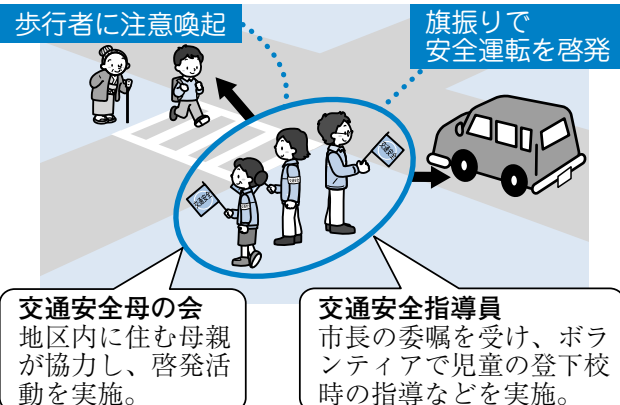


「子ども110番の家」の表示プレートが目印。

交通安全

事故に遭わないように

豊平区交通安全運動推進委員会は、町内会や区民の皆さんとともに交通事故の撲滅に向けた取り組みを進めています。各地区では年に四回(四・七・九・十一月)、チラシ・夜光反射材の配布や幹線道路での旗振りによる啓発を実施しています。交通安全指導員、交通安全母の会、老人クラブ連合会なども参加します。



(注)児童の登下校時は学校やPTAなどから成るスクールゾーン実行委員会が加わります。

交通事故の被害者・加害者を生まないためには、幼少期からの家庭内の教育が大切です。防犯についても同じことが言えます。

交通安全指導員を続けて

中の島小学校区を担当する富田さんは、幹線道路が交差する地点で子どもたちを見守ります。「おはよう」と声を掛けたり、握手をします。「子どもの様子は顔で分かれます。三十年間で交通事故死ゼロ二千日が二度あったことが印象的」交通安全母の会会長でもある藤井さんは東山小学校区の担当です。「子育て支援にも関わっています。子どもと接するのが楽しい。大人のマナーも気になります。子どもの手本になってほしい」



「子育て支援にも関わっています。子どもと接するのが楽しい。大人のマナーも気になります。子どもの手本になってほしい」

街頭啓発に参加して

西岡地区では、毎年四月から十一月まで月一回街頭啓発を実施しています。小学校、町内会のほかに、札幌大学やトヨタ部品北海道共販(株)も参加しています。

同社総務部長の竹内さんは「トヨタ自動車の社会貢献活動に合わせ、街頭啓発を始めました。町内会からの呼び掛けがあり、昨年からは地域と一緒に進んでいます。運転中の携帯電話の使用など、マナーの悪さが目につきます」と話していました。

